

# てんたかく 防除等管理特報

令和4年7月4日

アルプス農協管内農業技術者協議会

## てんたかくの生育状況と管理のポイント

	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉令	葉色	幼穂形成期	出穂期
			本/株	本/m <sup>2</sup>				
令和4年	5月2日	59.3	31.9	647	11.9	4.3	6月23日	7月14日予想
令和3年	5月2日	57.6	31.3	609	11.1	4.5	6月26日	7月16日
平年	5月6日	60.1	29.5	637	11.5	4.5	6月26日	7月18日

※平年は、H24～R3の平均値。R3は、立山町1か所、上市町1か所、滑川市2か所の計4か所の平均値。R2までは、立山町1か所、上市町1か所の平均値。

- (1) てんたかくの幼穂形成期は、5月2日植えの場合で、6月23日となり、平年に比べて3日早くなりました。
- (2) また、6月28日の梅雨明け以降、高温が続いており、てんたかくの出穂期は、平年に比べて早くなると予想されます。  
カメムシによる斑点米の発生を防止するため、出穂の状況を必ず確認して、遅れず適期に防除を行いましょう。
- (3) 水管理については、幼穂形成期から出穂期までは飽水管理、出穂期から20日間は湛水管理、その後から刈り取り5日～7日前までは間断かん水を励行し、稲体の活力を維持して、高品質米の生産につとめましょう。

## 1 てんたかくの基本防除のめやす 参照ページ:p10～11、37～42



【YouTube】  
14 基本防除

(田植日:5月2日、出穂期予想:7月14日頃の場合)

防除時期	出穂始め (穂が2～3割見られたら)	穂揃期 (穂が9割見られたら)	傾穂期 (穂揃期の7日後)
	7月10～12日頃	7月17～19日頃	7月24～26日頃
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a(収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで)	ラブサイドフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍(収穫14日前まで)	スタークル液剤 10 1,000倍(収穫7日前まで)
	散布量: 150ℓ/10a	散布量: 150ℓ/10a	散布量: 150ℓ/10a
対象病害虫	紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ

- ※防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけないようにしましょう。
- ※薬剤は決められた量や濃度を守り、畦畔や株元にも十分かかるように散布しましょう。
- ※農薬を散布する際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。

「防除日が遅くなった」、  
「防除間隔が長くなった」等、  
防除時期のずれが斑点米の  
発生につながります。

## 2 水管理

参照ページ:p70、75

【YouTube】  
10 中干し後の  
水管理



【YouTube】  
15 登熟期間  
水管理



幼穂形成期以降は、水不足にならないように、

【水管理のイメージ】を参考にして水管理を行いましょ。

### 【水管理のイメージ】

生育期	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5~7日前
水管理	← 飽水管理 →	湛水管理	間断かん水	
水量				

**出穂までは『飽水管理』**  
足跡の水がなくなる前に入水し、常に圃場が湿っている状態を保ちましょ。

足跡の水を切らさないように

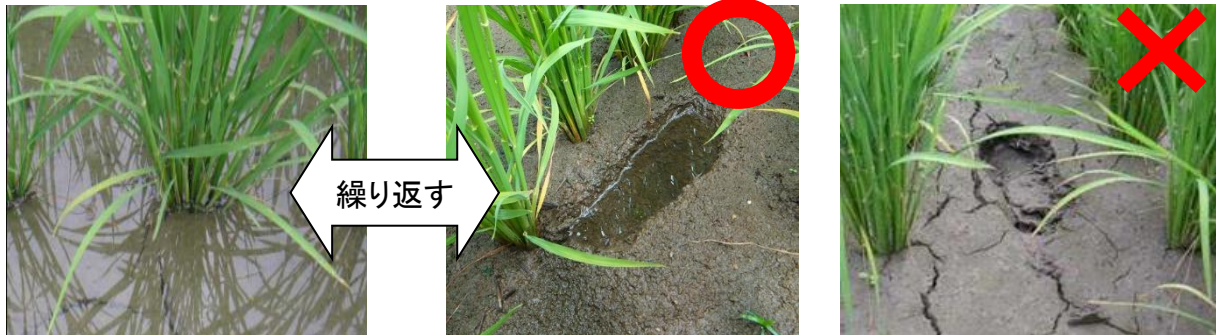
**出穂後20日間は『湛水管理』**  
湛水管理により収穫期近くまで葉色が高く、稲の活力が維持され登熟が向上します。

田面が出ないようにね

**収穫前まで『間断かん水』**  
出穂20日後から収穫の5~7日前までは間断かん水で稲体の活力を維持ましょ。

こまめな水分補給で最後までがんばるよ!

【飽水管理】 入水後→自然落水→入水 (出穂始め頃まで繰り返す)



「田面の高い部分が隠れる程度まで入水」 「この状態になったら入水」 「この状態は乾きすぎ」

×肥効調節型肥料(基肥一発肥料)の穂肥成分が溶出してくる時期でもあり、圃場が乾き過ぎると極端に葉色が低下するとともに肥料の吸収不良の恐れがあります。

- 下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止め、地域での計画的な用水の利用に努めましょ。
- フェーンが予想されたら、水不足にならないようあらかじめ入水ましょ!!

## 3 農作業中の熱中症対策

農作業中の熱中症による死亡事故は、7月~8月に集中しています。「熱中症対策のポイント」を参考にして、農作業を行いましょ。

### 熱中症対策のポイント

- ☀農作業の前に、気象情報や「暑さ指数(WBGT)」をチェックし、気温が高くなることが予想される場合は、激しい作業をさけましょ。
- ☀日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょ。
- ☀屋外の作業では、帽子や吸汗速乾性の衣服を着用ましょ。
- ☀屋内の作業では、必要に応じ送風機やスポットクーラーなどを利用ましょ。
- ☀のどが渇いてなくても、20分おきに休憩し、毎回コップ1~2杯以上を目安に水分補給ましょ。
- ☀作業はできるだけ複数で行い、時間を決めて水分・塩分補給の声かけや体調に異常がないか確認しあいましょ。

環境省ホームページ「熱中症予防情報サイト」  
<https://www.wbgt.env.go.jp/>

熱中症が疑われる場合は、すぐに作業を中断して応急処置を行うか、病院で手当を受けましょ。

○熱中症による代表的な症状



○応急処置の例

- ・涼しい場所へ避難ましょ。
- ・服をゆるめて風通しをよくましょ。
- ・水をかけたり、扇いだりして体を冷やましょ。(脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的。)
- ・水分や塩分を補給ましょ。